

一 次のエッセイ（『物語の善きサイクル』村上春樹）を読み、後の問に答えなさい。

図書館に入るたびに、それがどのような図書館であれ、僕はいささかの驚嘆の念に打たれることになる。子供のころからそうだったし、今でもそれはかわらない。小学生のころ、僕は図書館に行くのが何よりも好きだった（野球をするのも好きだったけれど、残念ながら野球場の中では僕はそれほど優れた存在ではなかった）。学校が終わると、よく自転車に乗って市の図書館に行った。そして少年用の書物を集めた部屋の書架から書架へと歩きまわり、そこにぎっしりと並んだ過去や現代の、あらゆる国からやってきた無数の物語を眺め、1目もくらむような思いをしたものだった。まるで、深い森から出てきて、空を背景にそびえ立つ中世の巨大な王城を、初めて目の前にした子供と同じように。

それほどたくさん物語を目の前にして、いったいどれから読み始めればいいのか、少年時代の僕には見当もつかなかった。だから結局のところ、目についたものを片端から手にとって、読み進んでいくことになった。しかしその段階では、細かい知的配慮のようなものはとりたてて必要とはされな<sup>い</sup>。本のページをいったん開けば、僕はいとも簡単に、そこに展開されている架空の世界に足を踏み入れることができた。それらの物語を読みふけているあいだ、僕は「2ここではないどこか」に移動し、留ま<sup>っ</sup>ていることができた。結局その部屋の書架に並んだ本のおおかたを読み尽くしてしま<sup>っ</sup>た。僕は数多くの「1ここではない」世界に移動し、物語が終了し、本の扉が閉じられると、またこちらの世界に戻ってきた（ときにはなかなかうまく戻ってこられないこともあつたけれど）。少年向けの本を読み終えると、（1）ネズミが別の食料庫に移動するように、今度は成人向けの本を漁り始<sup>め</sup>た。そのようにして僕は果てしなく、書物の世界に引き寄せられていった。

このように、図書館は今にいたるまで、僕にとつてとくべつな場所であり続けている。僕はそこに行けばいつでも、自分のためのたき火を見いだすことができた。あるときにはそれはささやかで親密なたき火であり、あるときにはそれは天をつくような、大きな、勢いのある（2）だった。そして僕はそのような様々なサイズとかたちのたき火の前に立って、身体や心を温めてきた。僕は小説家として、図書館を舞台にした物語をこれまでいくつか書いているが、それは言うまでもなく、3図書館というところが、僕にとつて大事な意味を持つ場所であつたからだ。

いくつかの例をあげてみよう。

長編小説『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』には、たくさんの一角獣の頭骨を収めた図書館が出てくる。主人公の若い男は、高い壁に囲まれた不思議な街に閉じ込められ、影を奪われ、その頭骨の語る夢をひとつひとつなぞる仕事を与えられる。別の長編小説『海辺のカフカ』の中では、主人公の十五歳の少年は家出をするのだが、あるきっかけで四国の郊外にある小さな個人図書館で暮らすようになる。そこで彼は不思議な過去の幻影に出会い、否応なしにそこに巻き込まれていく。少年向けのちいさな読み物である『ふしぎな図書館』では、主人公の少年は市立図書館の地下に住む不気味な老人に捕らえられ、脳味噌を吸われてしまうことになる。老人は少年に本を読ませ、脳味噌を吸い取ることで、その知識を自分のものにしようとするのだ。少年はそこから逃げ出さなくてはならないのだが、彼の足は鎖で縛り付けられている。

図書館とは、もちろん僕にとつてはとだけけれど「あちら側」の世界に通じる扉を見つげるための場所なのだ。ひとつひとつの扉が、ひとつひとつ異なつた物語を持っている。そこには謎があり、恐怖があり、喜びがある。4メタファーの通路があり、シンボルの窓があり、（3）の隠し戸棚がある。僕が小説を通じて描きたいのは、そのような生き生きとした、限らない可能性を持つ世界のあり方なのだ。

物語には数多くの不思議なことができる。僕はその効用を信じているし、その普遍性を信じている。小説家は、うまくいけばということだが、そのような効用や普遍性を生み出し、読者に送り届けることができる。しかしそれと同時に、そのような効用や普遍性は作家自身にも跳ね返ってくることもある。それはただ外に向けて送り出して、それでおしまいというものごとではないのだ。いったん外に向けて送り出されたものは、ブーメランのようにもとに戻ってくる。戻ってきたものは咀嚼され、もう一度別のかたちに変えられ、また送り出されていく。それはまたこちらに戻ってくる。そこに6ひとつのサイクルが作り出されることになる。

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る最も適当な語句を、各群のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- I ア 精悍な イ 元気な ウ 貪欲な エ 物足りない オ 調子づいた  
II ア いさり火 イ かがり火 ウ ランプの火 エ ろうそくの灯 オ のろし  
III ア 主題 イ 寓意 ウ 偶成 エ 投影 オ 仮託

問二 傍線1「目もくらむような思いをしたものだった」とあるが、筆者はなぜそのように思ったのか。最も適当なものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 読書経験の浅い少年であるために、古今の膨大な書物の量にただ圧倒されてしまったから。  
イ ちっぽけな存在である筆者は、立ちはだかる書物の存在感に恐縮してしまったから。  
ウ 幼い少年だった筆者にとって、巨大な王城のような図書館の大きさは驚愕に値したから。  
エ まだ知能の高くない子供には、どの順で物語を読むべきなのか深刻な問題となったから。  
オ まだ幼稚だった筆者が架空の物語世界に没頭すると、現実を忘れてしまったから。

問三 傍線2「ここではないどこか」と同じ場所を表現している語句を五字で二つ、本文中から抜き出さなさい。

問四 傍線3「図書館というところが、僕にとって大事な意味を持つ場所であった」とあるが、なぜ筆者はそう感じたのか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア どんな物語であれ、図書館にある物語は筆者をやさしく受け止める暖かさを持っていたから。

イ 辛い現実を逃れ「ここではないどこか」へ連れて行ってくれる唯一の場所だったから。  
ウ 深い森に抱かれるように、他者を排して内部に向き合える仮想空間になっていたから。

エ 自己を見つめ、未来への希望を獲得できるような特別な居心地を与えてくれたから。  
オ あらゆる時代、あらゆる国へ通じる扉が用意されている不思議な空間であったから。

問五 傍線4「メタファー」の意味として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 実存 イ 変身 ウ 高次 エ 異化 オ 隠喩

問六 傍線5「生き生きとした、限らない可能性」とはどのようなものか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア リアリティのある言葉に誘われて経験し得ないような感覚や感情までも顕在化させること。

イ 「あちら側」の世界において、日々の暮らしで感じる悲しみや喜びを暗号化すること。  
ウ 多種多様な物語が半永久的に続いていくように、図書館に保管・所蔵されること。

エ 非現実的な世界を構築する物語が、「あちら側」へと誘ってくれること。  
オ 実体験を比喩的に描写することによって、小説が描く架空の世界を無限に拡大させること。

問七 傍線6「ひとつのサイクルが作り出されることになる」とあるが、「サイクル」の内容の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 物語に対して読者と作家が各自の解釈を加えていくなかで、世界観が拡散すること。  
イ 作家が推敲を繰り返すなかで、物語の世界観は醸成されていくということ。  
ウ 作家は作品と対峙するなかで、作家として成長することがあるということ。  
エ 物語は読者との相互作用のなかで作られ、新たな価値を生み出すということ。  
オ 印刷されて流布した物語は、読者によって修正されてより良い作品へ昇華するということ。

二 次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字にしなさい。

- 1 ヌウ|猛果敢 2 厚|ガン|無恥 3 一|ネン|発起 4 一|網|ダ|尽 5 キ|怒|哀|楽

三 次の傍線部の漢字を一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 宿|題|を|テ|イ|出|する。 ア 低 イ 抵 ウ 程 エ 堤 オ 提  
2 シン|略|戦|争|を|非|難|する。 ア 震 イ 薪 ウ 侵 エ 浸 オ 寝  
3 ひよ|この|シ|雄|を|調|べる。 ア 雌 イ 紫 ウ 詞 エ 指 オ 脂  
4 トウ|論|会|が|開|かれる。 ア 逃 イ 闘 ウ 到 エ 討 オ 塔  
5 樹|レ|イ|百|年|の|桜|の|木。 ア 隸 イ 令 ウ 麗 エ 札 オ 齡

「令和四年度一般入校試験（後期） 国語 解答用紙」

受験番号
氏名
得点

一  
問一

I

II

III

問二

問三

  
-----  
  
-----  
  
-----  
  
-----  
  
-----  
  
-----  

問四

問五

問六

問七

二

1

2

3

4

5

三

1

2

3

4

5

数 学 I 問 題 用 紙

1 次を計算せよ。

(1)  $(\sqrt{3} + 1)(\sqrt{3} - 1) =$

(2)  $\frac{\sqrt{5}}{2} + \frac{3\sqrt{20}}{4} =$

2 次の方程式を解け。

(1)  $x^2 - 9 = 0$

(2)  $2x^2 - 3x - 2 = 0$

3 2次関数  $y = x^2 - 6x + 5$  のグラフ（放物線）について次の問いに答えよ。

(1) この放物線と  $y$  軸との交点の座標を求めよ。

(2) この放物線と  $x$  軸との交点の座標を求めよ。

(3) この放物線の頂点の座標を求めよ。

4  $\triangle ABC$  において  $AB = 2$  ,  $\angle ABC = 60^\circ$  ,  $\angle ACB = 45^\circ$  であるとき次の問いに答えよ。

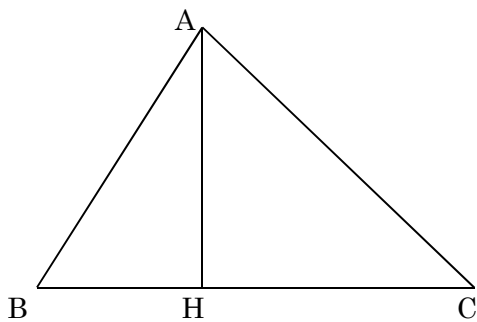
(1) 点  $A$  から辺  $BC$  に垂線を下ろしその足を  $H$  とするとき垂線  $AH$  の長さを求めよ。

(2) 線分  $BH$  の長さを求めよ。

(3) 辺  $AC$  の長さを求めよ。

(4) 線分  $HC$  の長さを求めよ。

(5)  $\triangle ABC$  の面積を求めよ。



5 以下は 2020 年伊勢崎市の月ごとの平均気温と，そのデータを箱ひげ図で表したものである。

(気象庁 Web ページ「過去の気象データ」より)

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
°C	6.2	7.0	9.9	12.6	19.9	23.9	24.3	29.9	24.4	17.0	12.4	6.3



このデータの①最小値 ②第 1 四分位数 ③第 2 四分位数(中央値) ④第 3 四分位数 ⑤最大値を求めよ。

数 学 I 解 答 用 紙

受験番号	氏 名	得 点

1

(1)	
(2)	

2

(1)	
(2)	

3

(1)	y 軸との交点の座標 ( , )
(2)	x 軸との交点の座標 ( , ), ( , )
(3)	頂点の座標 ( , )

4

(1)	AH=
(2)	BH=
(3)	AC=
(4)	HC=
(5)	$\triangle ABC=$

5

①最小値	(°C)
②第1四分位数	(°C)
③第2四分位数	(°C)
④第3四分位数	(°C)
⑤最大値	(°C)